

農業情報総合研究所／いちじくレポート「ハッピーファーム」(羽曳野市) 「完熟いちじくの甘さと都市近郊型農業の強み」

2022年11月中旬、大阪府羽曳野市のいちじく農家「ハッピーファーム」さんを見学しました。石川(大和川水系)の川原の近くに畑が広がっています。羽曳野市はいちじくの産地ということもあり、いちじく畑がいくつもありました。また、古墳などが多い地域です。「ハッピーファーム」さんの畑からは誉田古墳(応神天皇陵)が見えました。

「ハッピーファーム」の園主は吉川幸一郎さんです。就農して3年目です。いちじくがメインです。いちじく畑が25アール、それ以外のサツマイモなどが75アールです。露地、無農薬・無化学肥料で栽培されています。販路は「ハッピーファーム」の直売所(無人販売所)、オーガニック系の野菜を取り扱う八百屋、ネット通販となります。羽曳野市は都市近郊型農業の地域です。いちじくの完熟、朝どりを強みにできます。いちじくの収穫時期(8月から10月まで)には直売所に毎日通うお客様もいます。

いちじくの品種は、梺井ドーフィン、ビオレソリュス(特徴は黒色、とろとろ、甘みがある)、久留米くろみつ(特徴は黒色、水分多く、どろっとしている)、ブルジャケットグリース(特徴は白色、酸味と甘みのバランスが良い)などです。品種を聞きつけて買いにくるお客様もいます。

「ハッピーファーム」さんの特色は循環の取組みを行っていることも挙げられます。羽曳野市はぶどうの産地でもあります。ぶどうの剪定枝やワイナリーのぶどうの搾りかすは焼却など処分されています。「ハッピーファーム」さんは、ぶどうの剪定枝やワイナリーのぶどうの搾りかすを堆肥にして、いちじくの栽培に活用しています。畑から出たものを畑に戻しています。この循環の取組みを「ぶどうを肥料にした しあわせ無花果」のロゴに表し、ブランディングをしています。また、いちじくの剪定枝も処分されています。こちらも木炭にして、さつまいもの肥料にしています。



畑で完熟のいちじくをいただくことができました。甘みを堪能しました。

以上